

人が傷つかない世界へ

呉市立天応学園 7年 古田 優希菜



私がよく見るアニメには、
「私は昔、いじめを受けていた。」
という一文から始まるものが多いです。

簡単に
「いじめ」
と言うけれど、その三文字はある人を肉体的・精神的に苦しめる怖い三文字です。

いじめは、ある理由があって誰かをいじめのターゲットにされることが多いです。その理由は、

「自分にはないものをもっている。」

「見た目が嫌い。」

「障害を持っている。」

「名前が嫌い。」

というものが多く、いじめをしている側は小さなことを気にして、そのストレスを解消するために誰かをターゲットにしていじめをします。

けれど

「自分にはないものをもっている」

のは、人それぞれ得意、不得意があるからであり、自分の不得意を得意に変えたいのならば、努力すればいいと私は思います。「見た目が嫌い」は、生まれもった見た目を本人以外が批判することではないと思います。

「障害を持っている」や「名前が嫌い」という考えについては、本人だけでなく本人の保護者も傷つけているから、自分がその立場になって考えてほしいと思います。

このようにいじめはとても小さな理由や、相手をうらやましがる心から生まれます。それは自分のことだけしか考えていないということです。いじめをしたらどうなるのか考えずに行動して、相手を傷つけるということになっています。

他にもいじめは、物を隠したり、暴力行為をして相手を傷つけたりすることもあります。暴力行為は、いじめをされる側を物のようにして、心も体も傷つけます。心は、どれだけ傷つけられても、他の人の目には見えません。

先日、SNSで親が子供に人の心は傷つけてはいけないよということを見ます。その動画では、このように紹介されてありました。

まず、一枚の紙を用意します。子供がその紙に向かって悪口を言います。その悪口に合わせて、親が紙を少しずつ丸めていきます。

丸め終わったら

「かわいいね」

「センスあるね」

など、言われてうれしい言葉を丸まった紙に向かって言います。すると親は紙が丸められる前のもとの紙の状態に戻していきます。もとの状態に戻しても紙はしわしわになって、最初のつるつるの紙には戻りません。

そこで親は、

「紙はしわしわだね、この紙と一緒に相手に悪口を言ってあやまっても、もとの状態にはもどらないんだよ。」

と小さな」頃から、いじめを教えているそうです。

このSNSから、小さい頃からしていいことと、悪いことを教えるということがどれだけ大事かということが分かりました。私はこの教えを広げ、いじめをする人、される人を減らしていきたいと思いました。

もし多くの人がいじめというものを知らないで、された側は一生心に残ることです。本当に苦しめられた人は、居場所がなくなって不登校や命を絶つ場合もあります。命を絶つと、その人の人生が終わります。

その人がいなくなってしまう。

周り、家族はどのような気持ちになるか考えると

「悲しい」

「どうして」

と今の状況が分からずパニックになってしまいます。

だから私は、自分がした発言・行動が相手がよい気持ちになるか考えてから行動して、いじめを減らしていきたいです。